

D-6

日中語の動詞反復応答に関する理論的考察

長田 詳平, 胡 亜敏, 若松 弘子 (筑波大学大学院)

本発表は, Holmberg (2016)の動詞反復応答(VEA)に関する省略分析を受けて, 日本語・中国語において VEA が容認できない環境について情報構造の観点から考察を行う。先行研究では, 付加詞の解釈の復元可能性を基準に, 付加詞がフォーカスとして解釈される疑問文に対して VEA で応答できないという観察がなされているが, 本発表ではさらに, 日中語共に①項要素のフォーカス化, ②フォーカス詞有無並びに種類(「も/也」vs.「だけ/只」)も VEA の容認度に影響を与えることを指摘する。さらに, 小林(2009)の極小主義の枠組みにおけるフォーカス認可メカニズムを基に, 小林が仮定する新情報(New Information)という概念を「だけ/只」や総記の「が」など, É. Kiss (1998)が言う所の同定(identificational)フォーカスにも拡張し, これらの観察の説明を試みる。最後に, 日本語 VEA における「だけ」と否定辞の作用域関係に関する新たなデータから, 日本語 VEA の動詞移動の所在(統語か音韻か)に関して示唆を与える。

1. はじめに

1.1. 動詞反復応答 (Verb Echo Answers: VEAs)

◆ 極性疑問文に対する 2 タイプの応答とそれらの構造 (Holmberg 2016)

(1) 不変化詞 (e.g. 英語)

Q: Is John coming? A: Yes. (Holmberg 2016: 1)

(2) VEA (e.g. フィンランド語)

Q: Tul-i-vat-ko lapset kotlin?
come-PST-3PL-Q children home
'Did the children come home?'
A: Tul-i-vat.
come-PST-3PL
'Yes.'
(Holmberg 2016: 3)

(3) 構造

不変化詞: [CP Yes [TP ~~Join is coming~~]] (基底生成+TP 省略)
VEA: [CP Tulivat [TP lapset ~~<tulivat>~~ kotlin]
came children came home (V-to-C 移動(via T)+TP 省略)

1.2. 日本語・中国語における VEA

◆ 日本語・中国語では極性疑問文の応答に不変化詞と VEA の両方が容認可能である。

(4) Q: あなたはたばこを吸いますか?

A: 吸いますよ。 A': はい。

(5) Q: 你 吸烟 吗?

A: 吸。 A': 对/是的。

you smoke Q

smoke

yes

'Do you smoke?'

'Yes.'

'Yes.'

(Simpson 2014: 304)

◆ しかし, VEA を認可しない環境もある(Simpson 2014; Sato and Hayashi 2018)

(6) Q: そのシャツかわいいですね。ハワイで買ったのですか?

A:* 買いましたよ。 A': はい。 (Sato and Hayashi 2018: 84 より改変)

(7) Q: 这个衬衫, 你 在 夏威夷 买的 吗?

this-CL shirt you in Hawaii buy-DE Q

'Did you buy this shirt in Hawaii?'

A: *买的/买了。

A': 对/是的。

buy-DE /-ASP

yes

Intended: 'Yes'

'Yes'

(Simpson 2014: 312 より改変)

1.3. 本発表の目的

VEA を認可する条件について先行研究を整理し、さらなるデータの拡充を行う。また、焦点・前提の関係性と文の極性が VEA の認可に関わっている事実を観察し、この事実を統語的メカニズムを使って説明する。

2. VEA を用いない環境

2.1. 先行研究

主要部末端型(head-final)言語の日本語や、主要部先端型(head-initial)であっても孤立語の中国語では、動詞の主要部移動(V 移動)の存在に関して、観察が容易ではないという点で今なお議論が盛んである。先行研究では、VEA の存在からこれらの言語にも V 移動はあると主張している。その大きな根拠として、両言語の VEA には *pro* 分析では捉えられない振る舞いを示す点が挙げられる。

◆ *pro* 分析の棄却と V 移動+TP 省略分析の予測

【①someone の解釈】

(8) The indefinite *pro*-drop restriction

An existential indefinite singular subject pronoun cannot be *pro*-dropped.

(Sato & Hayashi 2018: 74 による Holmberg 2016:79–90 のまとめ)

(9) a. 陽一郎は恵が *e* 叩いたと言っている。

b. 陽一郎がこの機械は *e* 片手で操作できると言っている。 (Sato and Hayashi 2018: 75)

→ *pro* は定の代名詞(9a)もしくは総称名詞(9b)としては解釈できるが、不定の単数(誰か)の解釈はできない。

(10) Q: 誰かが昨日ここでタバコを吸いましたか?

A: 吸いましたよ。たぶん藤田さんですね。

(Sato and Hayashi 2018: 76)

→ VEA では空の名詞を「誰か」として解釈できる。

☞ *pro* とは違い、TP 省略分析であればこの振る舞いを予測できる。

(11) Q: 誰かが昨日ここでタバコを吸いましたか?

A: 昨日吸いましたよ。

A': ここで吸いましたよ。(°私 / *誰か)

(Sato and Hayashi 2018: 77)

→ 動詞以外の要素が残留した場合は TP 省略ではないということになり、そのような VEA は *pro* を経て派生しているため、空の名詞の解釈は定の代名詞に限定される。¹

【②付加詞の解釈復元性】

(12) 太郎は丁寧にトイレを磨いた。花子は車を磨いた。

(Sato and Hayashi 2018: 82)

→ 付加詞は *pro* にはなれない (cf. Funakoshi 2016)。

(13) Q: もう車を丁寧に磨いたの?

A: 磨いたよ。

(Sato and Hayashi 2018: 83)

(14) Q: 今日自宅でも夕食を食べましたか?

A: 食べましたよ。一人でテレビを見ながら食べたいので。

(Sato and Hayashi 2018: 84)

→ VEA は付加詞の解釈が復元される。

(15) VEA は V 移動+TP 省略で派生されるため、someone の解釈と付加詞の解釈が復元できる。

¹ つまり、VEA が常に V 移動+TP 省略で派生するわけではなく、*pro* で派生される場合もある。重要な点は、空の名詞の解釈と後述の付加詞の解釈の点で両者が区別されるという点である。本発表では、TP 省略を経て派生される VEA のみを VEA として扱う。

2.2. 付加詞が復元できない環境

(16) Q: そのシャツかわいいですね。ハワイで買ったのですか？

A: *買いましたよ。 A': はい。 (=6)

A: *买的/买了。 A': 对/是的。 (=7)

(17) Q: 今日はここには電車で来ましたか？/你今天是坐火车来这儿的吗？

A: *来ましたよ。 A': はい。 (Sato and Hayashi 2018: 84)

A: *来的/来了。 A': 对/是的。 (Simpson 2014:312 より改変)

→ 「Tシャツを買ったこと」や「ここに来たこと」は質問者にとって既知である。

(18) 先行研究の観察

VEA が容認されないのは付加詞にのみフォーカスがかかっている場合である。

(19) 焦点介入効果 (Focus intervention effect: Beck 2006, Kim 2002, Tomioka 2007)

[...β...[...γ+FOC...[...α...]]

β と α の統語操作は、介入する γ+FOC によって阻まれる。

(20) a. [CP [TP Subj [VP[+FOC] Adverb Obj tV] tT] V[+FOC]+T+C]

b. * [CP [TP Subj [VP Adverb[+FOC] Obj tV] tT] V[+FOC]+T+C] (Intervention effect)

c. * [CP [TP *pro*_{subj} [VP ハワイで[+FOC] *pro*_{obj} tV] tT] 買っ[+FOC]+た+C]

→ 副詞がフォーカスであり、V[+FOC]の T への移動を妨げている。よって、VEA が派生しない。

2.3. 問題点と本発表の観察

【①概念的な問題】

(21) VEA のフォーカス要素

a. 太郎は リンゴを 切りはした。

集合{食べる, 焼く, 煮る etc...}の中から「切る」を選択する。

b. Q: 太郎はリンゴを切ったの？ A: 切ったよ。

集合{切った, 切らなかった}の中から「切った」を選択する。

→ a と b では代替集合が異なる。

☞ VEA のフォーカスは V ではなく、極性値である。

【②項のフォーカス化】

(22) 主語フォーカス

a. Q: バレリーナではなくバレボーラーが恥ずかしがらずに踊ったのですか？

A: ??踊りましたよ。 A': はい。

b. Q: 不是芭蕾舞者, 是排球选手勇敢地跳了舞吗？

A: *跳了。 A': 对/是的。

(23) 目的語のフォーカス

a. Q: 水ではなくビールを間違えてかけたのですか？

A: *かけましたよ。 A': はい。

b. Q: 不是水, 是不小心泼了啤酒吗？

A: *泼了。 A': 对/是的。

→ 項にフォーカスがかかっても VEA で付加詞の解釈は復元しにくい。

【③ フォーカス詞】

(24) も/也

a. Q: その I♥T シャツおしゃれですね。ハワイでも買ったのですか？

A: 買いましたよ。 A': はい。

b. Q: 那件 I♥T 恤真好看。在夏威夷也买了吗?

A: 对/是的。

A': 买了。

→ 「も/也」が生起すると、容認できなかった付加詞の解釈も復元できる(cf. (6), (7))。

(25) だけ/只

a. Q: 車だけを丁寧に磨いたのですか?

A: ^{??}磨きましたよ。

A': はい。

b. Q: 你只认真地洗了车吗?

A: *洗了。

A': 对/是的。

→ 「だけ/只」が生起すると、付加詞「丁寧に/认真地」の解釈の復元ができなくなる(cf. (13))。

(26) someone での検証

a. Q: 前の授業で怒鳴り声が聞こえてきましたよ。先生が誰かを叱ったのですか?

A: 叱りましたよ。

A': はい。

a'. Q: 之前的课我听到有很大的斥责声。是老师骂人了吗?

A: 骂了。

A': 对/是的。

b. Q: 前の授業で怒鳴り声が聞こえてきましたよ。先生だけが誰かを叱ったのですか?

A: ^{??}叱りましたよ。

A': はい。

b'. Q: 之前的课我听到有很大的斥责声。只是老师骂人了吗?

A: *骂了。

A': 对/是的。

→ (26bA)では、「誰かを叱ったのは先生だけだ」の解釈は取りにくい。

(27) 観察のまとめ

(i) 付加詞だけでなく、項であっても、フォーカスとして解釈される限りは VEA が容認されない。

(ii) フォーカス句「も/也」が生起すると、VEA は容認されるようになる。

(iii) フォーカス句「だけ/只」が生起すると、VEA は容認されなくなる。

3. 提案

3.1. 小林(2009) のフォーカス認可メカニズム

◆ Agree (uninterpretable focus (uF), New Information (NI)) ⇒ Newest Information (フォーカス)

→ 文のフォーカスは統語操作(Agree)によって決定される。

(28) 用語の定義 (cf. 小林 2009: 135)

a. 前提: 開放命題 (open proposition) にとりたて詞の解釈ルールが組み込まれて作られる。

b. NI: ある前提に対して新しい情報を追加する (断定する)。

→ NI は前提を要求する素性

(29) a. 「も」

前提: $\exists_{x \neq a} x \in \lambda x P(x)$

素性の値: $NI_{Pos(itive)}$

b. 「は」

前提: $\exists_{x \neq a} x \in \lambda x \sim P(x)$

素性の値: $NI_{Neg(ative)}$

(30) a. 花子はケーキも食べた。

b. 花子はケーキは食べた。

→ 「花子がケーキ以外の食べ物 X を食べ {た(a)/なかった(b)}」ことを前提とする。

◆ NI 自体は解釈可能素性であるため、Agree を必要としない。

(31) A: 昨日のパーティはどうだった?

B: 花子が寿司を食べました。

C: 花子はケーキも食べました。

D: ケーキも食べたから、太ったんだ。

(小林 2009: 133)

→ 新情報(NI)が必ずしもフォーカス(Newest Information)ではない。

◆ 極性の干渉効果

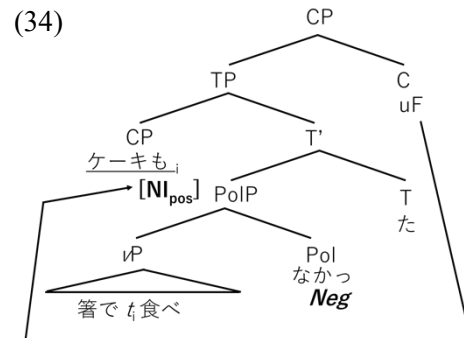
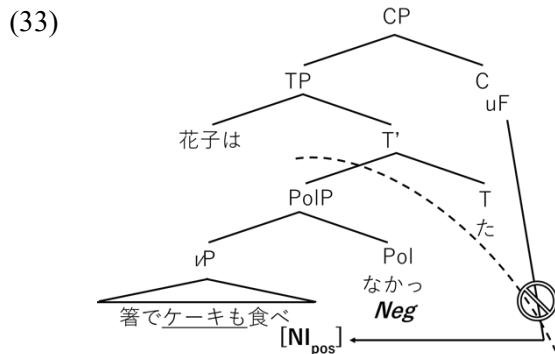
(32) a. Agree (uF, α)は α と同種異値となる素性 β によって阻害される(小林 2009: 136; 一部修正)。

b. ?? 花子は箸でケーキも食べなかった。

c. 花子は ケーキも 箸で *t* 食べなかった。

→ Agree (uF, も) は「も」と同種(polarity)異値(negative)によって阻害される。(33)

→ 「ケーキも」が PolP よりも高い位置へ移動した際には, Pol による干渉効果は起きず, 適正な文となる。(34)²



(35) a. ?? 花子は箸でケーキも食べなかった。

b. 花子は箸でケーキも食べた。

→ 「も」は NI_{Pos} を持つので, 文の肯定極性は Agree を阻害しない (同種同値)。

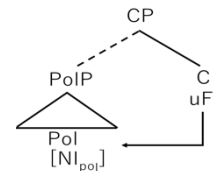
3.2. 分析

◆ 本発表での提案

(36) a. VEA は Agree (uF, NI_{±Pol(ality)}) によって生じる (cf. (21))。

b. Agree (uF, NI_{±Pol}) が起こらない限り, 基底生成の不変変化詞(日: はい/中: 对/是)で uF を満たす。

c. 総記の「が」や、「だけ」などの同定(identificational)フォーカスも「は」と同様に NI_{Neg} である。(cf. É. Kiss 1998)



(37) 対比の「は」と総記(排他)の「が」の並行性(cf. 野田 1996)

a. (花子は来なかったが,)そのパーティには太郎は来た。

定項で飽和した命題に情報を付け足す。(cf. 小林 2009: 146)

b. そのパーティには太郎が来た。(太郎以外の人間は来なかった。)

前提句[そのパーティに X が来た]の X の値を太郎で埋める。(=identification)

→ 前提句[そのパーティに X(≠太郎)は来なかった]が否定極性である点で並行的。(NI_{Neg} の性質)

⇒ (37a,b)の違いは, X(≠太郎)が閉集合(closed set)かどうか還元されると考える。

◆ 分析

(38) Q: 水ではなく, ビールをわざとかけたのですか?

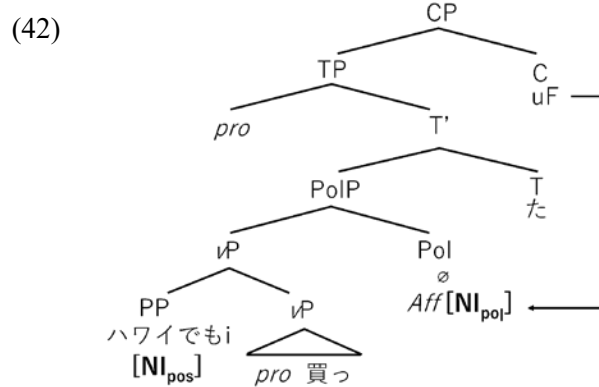
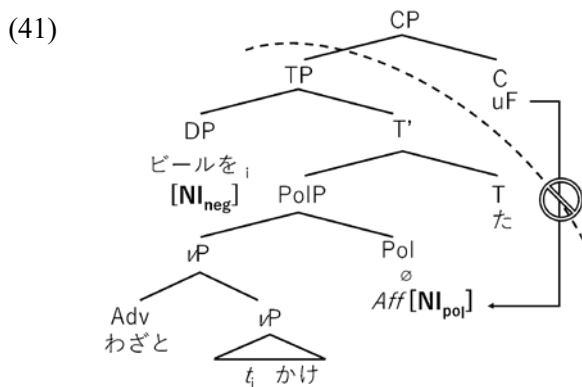
A: はい。

A': ??かけましたよ。

(39) Q: その I T シャツおしゃれですね。 ハワイでも買ったのですか?

² 便宜上かき混ぜ操作の移動先を TP 指定部とするが, 本発表ではこの問題は議論しない。

A: はい。
A': 買いましたよ。



(43) Q: 車だけを丁寧に洗ったのですか?

A: 洗いましたよ。/洗了 A': はい。/对/是是的。

[CP [TP 車だけを_i [NI_{neg}] [PolIP [vP 丁寧に_{t_i} 洗っ] \emptyset [NI+Pol]]た]uF]

[CP [TP 我只 [NI_{neg}] [PolIP \emptyset [NI+Pol] [vP 认真地 [vP 洗车]]]了]uF]]

→ フォーカス句「だけ/只」は NI_{Neg} 素性を持つので、Agree (uF, NI_{+Pol})を阻害する。

3.3. さらなる証拠：否定疑問文の回答とフォーカス句

(44) 予測①：「だけ」を持つ否定疑問文の応答は VEA でも容認される。

Q: 車だけを丁寧に洗わなかったのですか?

A: はい。バイクと自転車は丁寧に洗いました。(だけ > ない, ?ない > だけ)

A': 洗いませんでしたよ。バイクと自転車は丁寧に洗いました。(だけ > ない, ?ない > だけ)

→ 付加詞「丁寧に」の解釈を保持しつつ VEA で解釈できる作用域関係は「はい」で答える場合と同じである。

(45) 予測②：「も」を持つ否定疑問文の応答は VEA では容認されない。

Q: 数学の試験も真面目に受けなかったのですか?

A: はい。どの教科もやる気が無かったので。(も > ない, ?ない > も)

A': 受けませんでしたよ。どの教科もやる気が無かったので。

→ VEA では「そもそも受けなかった」の解釈が強い。

☞ 否定疑問文で「だけ」と「も」の振る舞いが逆転するのは、同種同値/異値から帰結する。

4. 日本語における動詞移動

(46) VEA におけるスコープ関係

Q: 太郎は パンだけ 食べたの?

A: 食べなかったよ。(?だけ > ない, ない > だけ)

(Sato and Maeda 2017: 30)

→ Sato and Maeda は、VEA において否定が必ず「だけ」より広い作用域を取ることから、日本語 VEA において動詞は統語部門で C まで移動している証拠としている。

(47) 両方の解釈が取れる場合

A: (色々な種類の動物を飼っている B が犬をぞんざいに扱っているところを目撃して)

犬だけを いいかげんに 飼っているの?

B: 飼ってないよ。(?だけ > ない, ない > だけ)

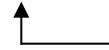
解釈①：いいかげんに飼っていないのは犬だけだ。(他の動物は確かにいいかげんだ。)

解釈②：犬だけをいいかげんに飼っていることはない。(他の動物もいいかげんに飼って

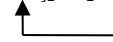
いる。)

→ 前提句と VEA で生じる解釈に齟齬が無い限りはどちらの解釈も可能である。

(48) a. [CP [TP 犬だけを_i [NINeg][PolP [vP いいかげんに *pro* ti 飼っ]てな [NI-Pol]]い]uF] (だけ > ない)



b. [CP [TPi [PolP [vP いいかげんに *pro* 犬だけを[NINeg] 飼っ]てな [NI-Pol]]い]uF] (ない > だけ)



→ (47B)では、「だけ」と Neg が同種同値であるため、(48a,b)のどちらの構造も可能である。よって、作用域に関してどちらの解釈も許される。

☞ 従って、VEA での V 移動が統語部門の操作であるとは確実には言えない。

☞ 本発表での説明では、VEA はフォーカスである Pol の音韻具現を V(+T)に助けてもらうという点で、英語の *do*-support のメカニズムに近い。

5. 日本語と中国語の違い：否定疑問文

(49) a' Q 你 不吸烟 吗? A: 不吸。 A': 对/是的。 (cf. (5))

b' Q 你 不每天吸烟 吗? (タバコを毎日吸わないの?)

A: ? 不吸。(吸わないよ。) A': 对/是的 (はい。)

(50) a'. Q: 你没认真地洗车吗? (丁寧に車を洗わなかったの?)

A: ? 没洗。(洗わなかったよ。) A': 对/是的。(はい。)

b'. Q: 你只没认真地洗车吗? (車だけを丁寧に洗わなかったの?) (cf. (45))

A: * 没洗。(洗わなかったよ。) A': 对/是的。(はい。)

→ 中国語では付加詞が入ると否定疑問文を不/没+VEA で答えられるが、付加詞の解釈が復元しにくい。(49b',50a')

→ フォーカス句では、不/没+VEA では答えられない。(50b')

6. 結論

(i) 日中語の VEA の(非)容認性は焦点・前提構造およびフォーカス句の性質に左右される。

(ii) (i)の事実は、小林(2009)に基づくフォーカス認可に関する統語的メカニズムで説明される。

(iii) VEA において動詞が発音されるメカニズムについては今後の課題である。

参考文献

- Beck, Sigrid (2006) Intervention effects follow from focus interpretation. *Natural Language Semantics* 14(1):1–56.
- É. Kiss, Katalin (1998) Identificational focus versus information focus. *Language* 74: 245–273.
- Funakoshi, Kenshi (2016) Verb-stranding verb phrase ellipsis in Japanese. *Journal of East Asian Linguistics* 25(2): 113–142.
- Holmberg, Anders (2016) *The syntax of yes and no*. Oxford University Press: Oxford.
- Kim, Shin-Shook (2002) Intervention effects are focus effects. In: Noriko Akatsuka and Susan Strauss (eds.) *Japanese/Korean linguistics*, Vol.10, 615–628. Stanford, CA: CSLI Publications.
- 小林亜希子 (2009) 「とりたて詞の極性とフォーカス解釈」『言語研究』136: 121–151.
- 野田尚史 (1996) 『「は」と「が」』東京：くろしお出版。
- Sato, Yosuke and Masako Maeda (2017) Syntactic head movement in Japanese: Evidence from verb-echo answers and negative scope reversal. Retrieved from <https://ling.auf.net/lingbuzz/003769>
- Sato, Yosuke and Shintaro Hayashi (2017) String-vacuous head movement in Japanese: new evidence from verb-echo answers. *Syntax* 21(1): 72–90.
- Simpson, Andrew (2014) Verbal answers to yes/no questions, focus, and ellipsis. In: Audrey Li, Andrew Simpson, and Wei-Tien Dylan Tsai (eds.) *Chinese syntax in a cross-linguistic perspective*, 300–333. Oxford: Oxford University Press.
- Tomioka, Satoshi (2007) Pragmatics of LF intervention effects: Japanese and Korean Wh-interrogatives. *Journal of Pragmatics* 39 (9): 1570–1590.